

株主通信

JASDAQ 証券コード: 3386

第29期

第2
四半期

2011 Business Report
2011.1.1-2011.6.30



Inspiration for Life Science

特集

ライフサイエンスの世界
～細胞研究～

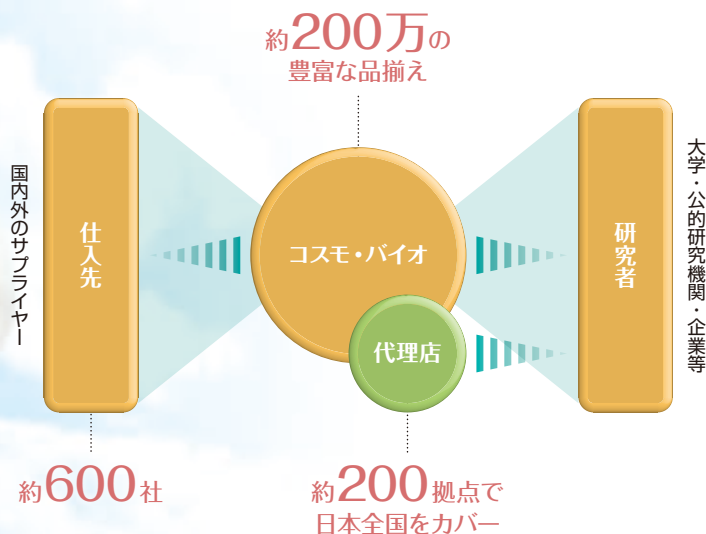


人と科学のステキな未来へ
コスモ・バイオ株式会社

世界のライフサイエンス研究を支援する専門商社

国際ネットワークと情報力を生かし、 信頼される質の高いサービスを提供します。

専門分化したたくさんの分野、多岐にわたる研究テーマ。そのなかでそれぞれの目的で研究に専念する研究者たち。私たちコスモ・バイオはこれらの研究者が求める極めて専門的で高度なニーズに対応するために、新たな商品・仕入先を常に世界中で開拓し、約200万にも及ぶ豊富な品揃えを実現するとともに、膨大な商品情報と多様なニーズのマッチングに努め、研究活動をバックアップしています。



トップインタビュー

当期の取り組みについて

Q1 当第2四半期累計期間の連結業績は いかがでしたか？

当第2四半期累計期間の連結業績は、増収及び大幅な増益となりました。増収については、前期第2四半期よりビーエム機器(株)の連結子会社化を行っており、当期は、第1四半期から同社の売上が加わっていることが大きな要因です。

しかしながら、当初予想に対しては売上未達となっております。この要因は主に、緊縮財政による政府予算の大幅減少、東日本大震災による影響、の2点です。

政府予算は大学等の基礎研究を支える大切な財源のひとつです。年度末(当社の第1四半期)に補正予算が追加配分されると、購買活動はより活発になりますが、残念ながら昨年度の補正予算効果は前年度実績を大きく下回る結果となりました。

東日本大震災時には、当社グループは幸い、人的被害はなく物理的被害もわずかでしたが、被災地の大学や研究機関の中には甚大な被害を被ったところもありました。また、1ヵ月以上にわたって取引が中断した代理店もありました。

こうした影響はあったものの、当第2四半期累計期間には円高傾向が継続し、これが利益面に寄与し大幅な増益となりました。

● 連結業績の推移

(単位:百万円)

	前第2四半期実績(累計)		当第2四半期(累計)		前年同期比増減	当初予想比増減
	前第2四半期実績(累計)	当第2四半期(累計)	当初予想(2月14日公表)	実績		
売上高	3,287	3,978	3,696	+12.4%	-7.1%	
営業利益	461	564	588	+27.5%	+4.3%	
経常利益	445	567	570	+28.2%	+0.5%	
四半期純利益	278	310	316	+13.8%	+1.9%	

代表取締役社長

笠松 敏明



Q2 通期見通しはいかがですか？

東日本大震災が経済全体に及ぼす影響を推し量ることは非常に困難ですが、今のところ、当社の当期連結業績に及ぼす影響は限定的であると考えております。3月11日の震災以降、しばらくの間は国際物流・国内物流ともに大きな影響が出ましたが、その後は物流網とともに売上高も正常に戻っております。

また、下期の市場環境は、研究開発予算の執行に先行き不透明感はあるものの、復興特需(一時的)に加え科研費増額の効果が期待されるなど、プラス材料も少なくありません。こうした状況下、当社グループは目標達成に向けた積極的な営業活動を行っていくことで、通期ベースではほぼ当初予想の範囲内で着地させたいと考えております。また、利益面では、為替変動要因が大きいことから、現段階では通期の利益予想についても当初予想を変更しておりません。

● 通期の業績予想			(単位:百万円)
売上高	7,529	+12.8%	
営業利益	765	+9.2%	
経常利益	783	+23.2%	
当期純利益	433	+16.0%	

Q3 ところで、東日本大震災では どのような支援を行いましたか？

被災地復興のための義援金として、会社及び社員有志から僅かではありますが寄付させていただきました。また、被災されたお客様に対しては、商品の一部を無償あるいは特別価格にて再提供させていただいております。しかし、復興が進んでいるとはいえ、まだまだ震災前の状態には戻っていない研究施設もあると聞きます。私たちは、短期的な支援にとどまらず、今後も引き続き支援を続けてまいります。

経営戦略について



2+ 今後の中長期的な経営戦略をお教えてください。

営業面では、既存の商品を的確に販売して現在の売上基盤を拡大すると同時に、新しい商品を導入して将来の売上につなげていく、という取り組みに尽きると思います。現在注力しているのは、次世代医療技術への応用が期待されているRNA研究、iPS細胞等で話題の細胞関連研究、創薬支援などの分野です。RNA研究の分野では、2010年に(株)B-Bridgeからの事業譲受によりこの分野の活発化を図り、その後も米国スイッチギア・ゲノミクス社との新規契約をは

じめ新商品の導入に取り組み、当社RNA関連試薬の品揃えをさらに拡充しています。また、iPS細胞研究は、国が成長分野として積極的な支援を行っている分野であり、創薬支援については、市場ニーズを的確に押さえていくことで今後の当社シェアの拡大が十分に期待できます。販売競争が激化していくなか、他社より抜きん出た商品・サービスを提供できる得意分野を一つでも多く創り上げ、お客様から“この分野はコスモ・バイオだ”という市場プレゼンスを築き上げ、それらの分野では圧倒的シェアを勝ち取っていきたいと考えております。

グループ経営面では、細胞を製造・販売する子会社(株)プライマリーセルが有するメーカー機能を活かしたグループ力の強化、前期より連結子会社化したビーエム機器(株)とのシ

Clip-1

文部科学省の「平成23年度予算」では、我が国の持続的成長を目指し、科学技術の基礎研究分野への重点配分が行われています。

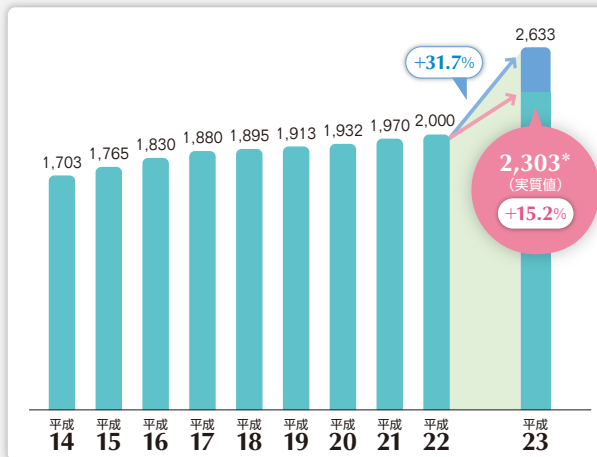
文部科学省の平成23年度予算は、厳しい財政事情を反映して前年度を下回るなか、「科学技術力による成長力の強化」に係わる予算については予算の重点的配分が行われ、前年度を上回る予算編成となっています。

このうち、「持続的な成長の源泉たる基礎研究の充実強化」に係わる予算についても、「基礎研究の充実により、独自の分野で世界トップに立つ大学・研究機関の数を増やし、イノベーションとソフトパワーを持続的に生み出すことにより、我が国の成長力を強化する”ことを目指して増額され、当社顧客の研究活動資金と大きな関係を持つ「科学研究費補助金」(いわゆる科研費)は、前年度を大きく上回る水準となっています。

なお、この補助金は今年度より、一部の研究種目の基金化を行って研究活動・研究費の最大効率化や研究者の負担軽減を図ること、研究費拡充によって若手研究者のチャレンジ機会の拡充を図ること、などの新たな施策が盛り込まれています。

このように、当社事業に関係の深い国家予算は拡大傾向にあり、国家的取組みは強化の方向を示しています。

● 文部科学省「科学研究費補助金(科研費)」予算額の推移



*今年度より一部研究の基金化を行っているため、次年度以降の研究費分として執行予定の研究費が含まれており、これを除いた実質的な予算額は2,303億円(前年度比+15.2%)。

*資料は文部科学省の公表データより

ナジー効果を高めるための体制強化、米国子会社COSMO BIO USA, INC.の米国市場開拓と世界に向けた情報発信の2つの役割を担う拠点としての強化を推し進め、グループの総合力を高めてまいります。

株主の皆様へ

株主の皆様への利益還元については、当期より中間配当の実施を決議し、当期は1株当たり中間配当800円を実施させていただきました。また、情報発信面では、この株主通信による情報発信のほか、個人投資家向けにも定期的に会社説明会を実施するとともに、ホームページではそのご報告も兼ねて、説明会での質疑応答の内容を掲載させていただ

くなど、フェア・ディスクロージャーの観点に立った情報発信の充実に努めております。

市場環境は、震災後の不透明感や不安定な世界経済の情勢などから、決して楽観視できる状況にはありませんが、ライフサイエンスの分野は、国の成長戦略においても注力分野と位置づけられるなど、中長期的な成長が見込まれる分野です。当社は、この分野において「世界のライフサイエンス研究を支援する専門商社」という確かなポジションを築き、ステークホルダーと共に成長していきたいと考えております。

株主の皆様には、引き続き当社の経営にご理解とご支援をお願い申し上げます。

Clip-2

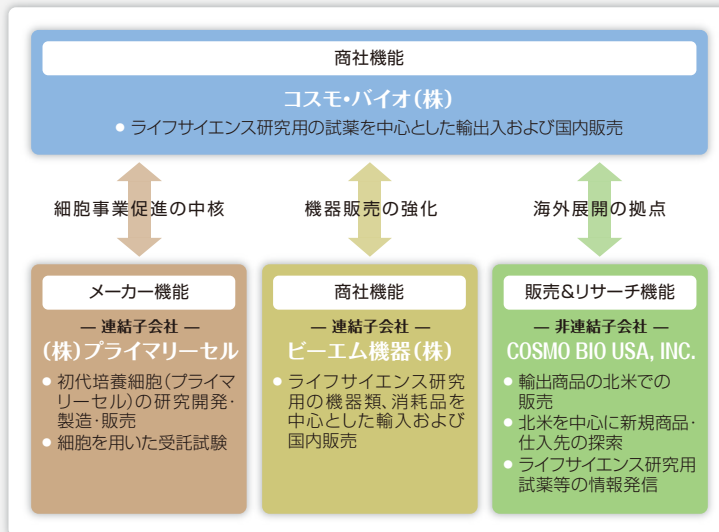
コスモ・バイオは、子会社3社との連携により世界の研究者のトータルサポートを行うグループ経営を推し進めています。

コスモ・バイオには、3つの子会社があります。

当社は、ライフサイエンス研究用の試薬を中心とした専門商社です。子会社の一つビーエム機器(株)は、当社と同様に商社ですが、取扱商品が異なり、ライフサイエンス研究用の機器類や消耗品を中心としています。この2社で、試薬と機器両面からの研究サポートを実現しています。

また、(株)プライマリーセルは、メーカー機能を有し、初代培養細胞の研究開発・製造・販売に加え、細胞を用いた受託試験を展開しており、当社グループの「創薬支援分野」の拡大にも寄与しています。

海外子会社COSMO BIO USA, INC.は、海外市場開拓のみならず、有望な仕入先や商品を探索し、また、研究者が求める有益な商品情報の発信を行っています。



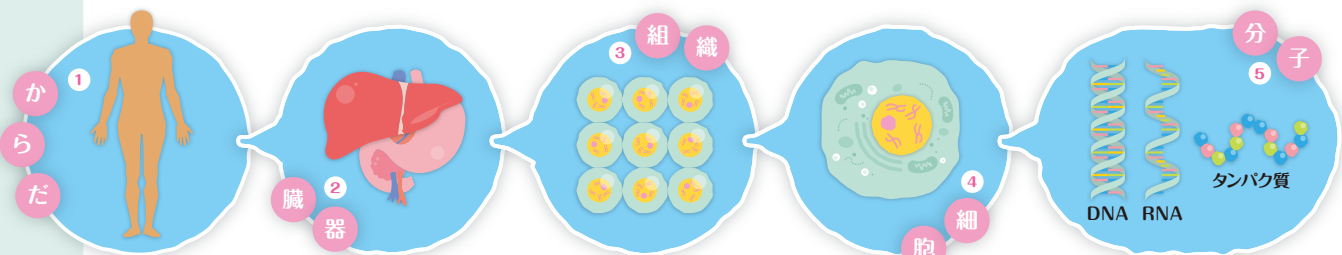
特集 ライフサイエンスの世界 ～細胞研究～

ライフサイエンスの基礎研究には、細胞・分子レベルでの研究がとても重要。

今回の特集では、「細胞」レベルの研究・支援にフォーカスします。

たとえば新しい薬を創る(創薬)ためには、病気の原因をつきとめ、どのような成分をどのように施せば治療効果が上がるのかを実験によって検証しなければなりません。そうした検証では、からだ、臓器、組織、細胞、分子(遺伝子やタンパク質など)が実験対象となります。

ライフサイエンス(生命科学)の基礎研究では、現在、細胞レベル・分子レベルでの研究活動が活発に行われており、当社グループは、この研究活動をさまざまな方面から支援しています。



① ヒトをはじめとした生きているものからだ。

② 複数の組織が組み合わさって一定の動きを持つまとまりをなしたもの。

③ 何種類かの決まった細胞が一定のパターンで集合した構造の単位。全体として一つのまとまった役割を持つ。

④ 生体の構造上・機能上の基本単位。細胞膜に包まれている一個の微小な生活体。

⑤ タンパク質は細胞を構成する主要成分で、アミノ酸が連なってできたもの。種類、機能は多種多様。細胞核の中にあるDNAは遺伝情報(生命の設計図)などの蓄積・保存の役割を担う。RNAは遺伝情報の一時的な処理を行うもののほか、直接的に遺伝子発現の調節を行うものもある。



「細胞」を使って、どんな研究をするの？

ヒトのからだは、約200種類の細胞が60兆個も集まってできています。これらの細胞や細胞からなる組織は、からだの場所によって機能が異なっていて、研究においては、研究対象に対応した細胞・組織が使われます。

たとえば、骨粗しょう症を予防する新薬を開発している研究者は、骨をつくる細胞を活用してその薬剤効果を検証する実験を行います。

「細胞」を使った研究は、こうした病気の治療や予防のための薬剤の効果を検証する目的のほか、遺伝子機能の解析、免疫研究など、様々な目的で行われています。

薬剤効果の検証

がん抑制効果
骨粗しょう症の予防

関節障害抑制効果
抗肥満効果 …

遺伝子機能解析

免疫研究

…



細胞を使った研究は、
どうして重要なのか？

生命の基本最小単位である「細胞」を研究することで、
分子レベルではわからない生命現象の解析が可能だから。

iPS細胞をはじめ細胞研究は近年ますます盛んとなり、今後、ライフサイエンスに広く貢献していく分野と考えています。

当社グループの取り組み

- 仕入先を拡充し、様々な細胞を入手可能に
- 生細胞の輸入を可能とする特殊な輸送容器や保存液を独自に開発 など





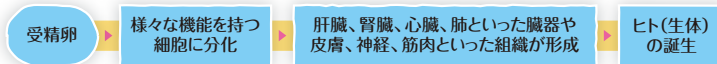
最近、「iPS細胞」のニュースをよく聞くけど・・・

Q 1

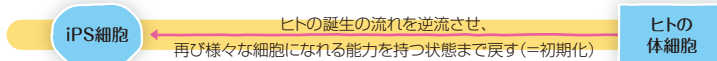
iPS細胞ってなに？

iPS細胞とは、皮膚などの体細胞に遺伝子などを導入することで細胞核を初期化させた細胞です。人間を含め哺乳類はたった1つの受精卵が細胞分裂・分化を繰り返して各臓器などを形成しますが、一旦分化すると、そこから他の細胞になることはできないとされていました。しかし、この体細胞を初期化して再び様々な細胞になれる能力をもつ状態に戻すことができた、という、それまでの常識では考えられなかった衝撃的な成果を2007年に京都大学の研究グループが世界に先駆けて発表しました。

● ヒトの誕生の流れ



● 「iPS細胞」作製の流れ



作製したiPS細胞から、必要な臓器や組織を作ることで、医学的かつ薬学的な様々な活用が可能となる

iPS細胞は日本が誇る最先端技術。しかし日本だけではなく世界中がこの技術に注目し、猛烈なスピードで研究が進められています。日本政府は、2007年のヒトiPS細胞樹立の報告以降、従来のライフサイエンス関連の研究と比べると異例のスピードと研究予算規模で研究体制づくりに動いています。

文部科学省が管轄する多くの基礎研究に関するプロジェクトが進行するほか、経済産業省では2009年度から産業利用に向けたプロジェクトを推進しています。さらに、厚生労働省はiPS細胞の臨床応用に向けた指針の策定に着手しています。

日本発の夢の技術。世界の医療に貢献するかもしれないなんて、わくわくしますね。

Q 2

なにがそんなにすごい？ 私の役にも立つ？

「iPS細胞=再生医療」というイメージが強いかもしれませんが、iPS細胞は200種類以上ある体のなかのどの細胞にも分化することができる可能性を持ち、再生医療だけではなくあらゆる病気の治療に役立つ細胞です。

iPS細胞には、以下の3種類の利用法が考えられています。

1

薬の安全性と効果の評価

▶▶ 既にヒトiPS細胞由来の細胞が日本でも市販

2

発病メカニズムの解明と治療法の開発

▶▶ 取り組みが始まっている

3

疾患組織を再生させる医療技術(将来的)

▶▶ 安全性の確認が不可欠



コスモ・バイオは、「iPS細胞」研究にどのように関わっているの？

iPS細胞は最終的には再生医療への応用が期待されていますが、iPS細胞の作製方法から安全性まで、まだまだ基礎研究で確認すべきことはたくさんあります。これからiPS細胞研究を始める研究者も大勢いらっしゃるでしょう。

この基礎研究をサポートするために、当社グループは様々な細胞研究用試薬に加え、iPS細胞研究に適した試薬も多数取り揃えています。



iPS細胞培養用培地

iPS細胞保存液

iPS細胞を作製するための試薬

iPS細胞を他の細胞に分化させるための試薬

...

トピックス

1
Topics

スイッチギア・ゲノミクス社との日本国内における 独占販売代理店契約締結

2011年4月に米国のSwitchGear Genomics社と、日本国内における独占販売代理店契約を締結しました。

同社のmicroRNAによる遺伝子制御効果の測定システムを当社ラインナップに加え、RNA分野の研究者の皆様をより一層サポートしてまいります。



2
Topics

個人投資家のための会社説明会 ～2011年5月31日～

「ジャパニーズインベスター」誌・宝印刷(株)主催の会社説明会に参加しました。



開催テーマ

ヘルスケア
～元気で長生き～

弊社ウェブにて、説明会の資料・動画およびQ&Aがご覧いただけます。

<http://www.cosmobio.co.jp/ir/new/2011/06/20110601.asp>

3
Topics

IRホームページのご案内

ホーム > IR情報

<http://www.cosmobio.co.jp/ir/>

個人投資家向け会社説明会



中間配当について

当社は従来、年間配当の実施を期末において一括して行ってまいりましたが、「株主の皆様への利益分配の機会の充実」を図るため、当期より中間配当を実施することといたしました。

当期の中間配当は1株当たり800円にて実施させていただきます。また、期末配当は1,000円(通期ペースで1,800円)とさせていただきます見通しです。

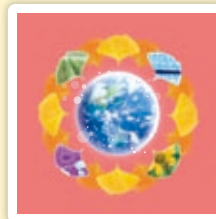
● 当期(2011年12月期) 配当予想

1株当たり配当金

中間配当 (実績)	期末配当 (予想)	年間配当 (予想)
800円	1,000円	1,800円

● 表紙について

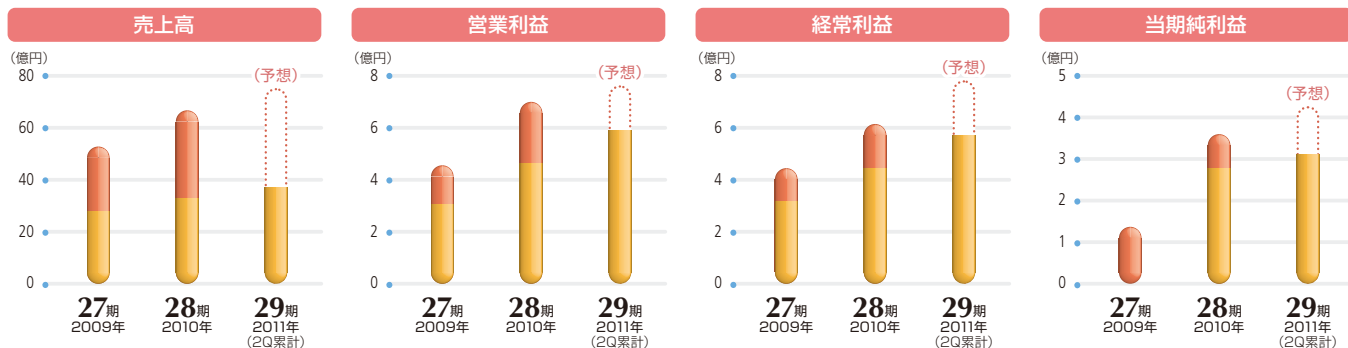
地球が育んでいる無数の生命体。その一つひとつに無限の可能性が秘められています。私たちコスモバイオは、この可能性を最大化させることで、人と科学のステキな未来へつなげていきます。



今回の表紙では、この冊子が株主の皆様へ届けられる秋をイメージし、イチヨウの葉をモチーフとしました。

営業の概況（連結）

● 通期 ● 2Q累計



● 研究予算の減少と東日本大震災の影響

民間企業の研究活動は堅調だったものの、大学・公的研究機関では1～3月の政府予算が前年同期比で大幅に減少し、また東日本大震災による先行き不透明感でさらに低調となるなど、厳しい環境で推移しました。

● 積極的な営業活動

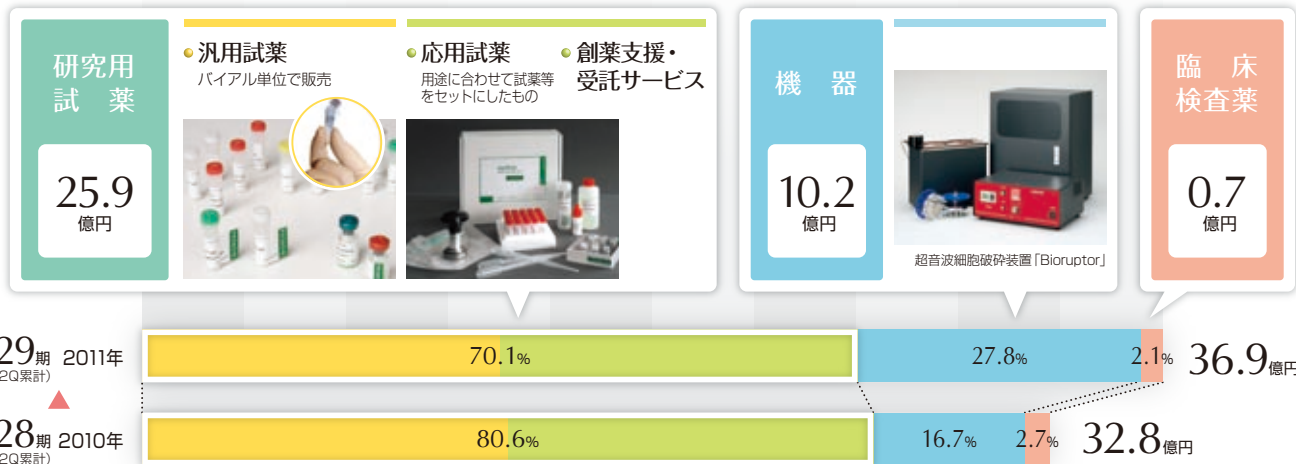
厳しい環境下、新規仕入先・商品の開拓やプロモーション・販促活動に努めた結果、当第2四半期累計期間の連結売上高は前年同期比で12.4%増となりました。

● 為替変動と経費節減の取り組み

為替レートが当期計画の1ドル当たり90円に対し第2四半期累計期間は平均82円という環境と、諸経費の節減にも努めた結果、大幅な増益となりました。

商品分類別連結売上高

2010年3月のビーエム機器(株)の連結子会社化により、当第2四半期累計期間の連結売上高に占める「機器」販売比率が拡大し、構成比に以下のような変化が生じています。



連結財務諸表（要約）および主な連結経営指標

● 貸借対照表

(単位:百万円)

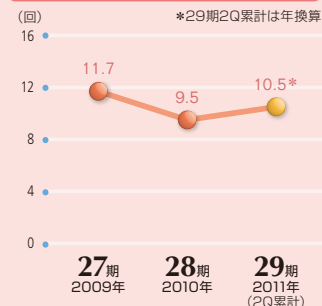
	前期末 2010年12月31日現在	当第2四半期末 2011年6月30日現在		前期末 2010年12月31日現在	当第2四半期末 2011年6月30日現在
資産の部			負債の部		
流動資産	4,720	5,247	流動負債	831	867
現金及び預金	980	1,592	支払手形及び買掛金	397	365
受取手形及び売掛金	2,235	1,932	短期借入金	20	25
有価証券	606	906	その他	414	476
たな卸資産	701	706	固定負債	281	289
その他	203	116	負債合計	1,113	1,156
貸倒引当金	△ 7	△ 5			
固定資産	1,449	1,203	純資産の部		
有形固定資産	163	171	資本金	918	918
無形固定資産	191	182	資本剰余金	1,221	1,221
投資その他の資産	1,093	850	利益剰余金	2,524	2,732
投資有価証券	746	527	評価・換算差額等	△ 43	△ 31
関係会社株式	11	11	少数株主持分	435	453
その他	338	313	純資産合計	5,057	5,294
貸倒引当金	△ 2	△ 2			
資産合計	6,170	6,451	負債純資産合計	6,170	6,451

● 通期 ● 2Q累計

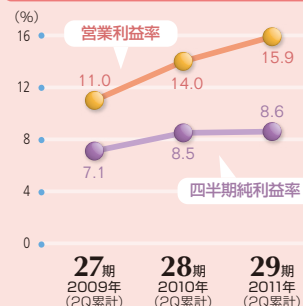
自己資本 / 自己資本比率



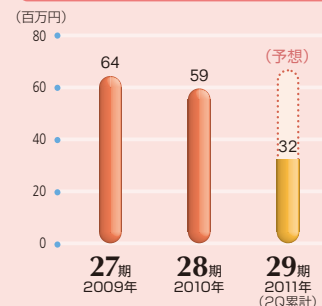
たな卸資産回転率



営業利益率 / 四半期純利益率



従業員1人当たり売上高



One Point! 解説① 財務状態

当社は、利益の一部を利益剰余金として積み上げるなど自己資本の充実に努めています。その結果、自己資本比率は75%前後の安定した状態を保っております。一方、たな卸資産回転率(当第2四半期累計期間は年換算)は、10回転前後の高い効率性を確保しています。

One Point! 解説② 収益力

当社は多くの商品を海外から輸入しており、当第2四半期累計期間における為替が円高傾向となったことから、利益率が向上しています。為替の変動にかかわらず、下期も経費節減の継続に努め、通期ベースの利益率についても高水準の確保を図ってまいります。

● 損益計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期累計 2010年1月1日～ 2010年6月30日	当第2四半期累計 2011年1月1日～ 2011年6月30日
売上高	3,287	3,696
売上原価	1,891	2,043
売上総利益	1,396	1,652
販売費及び一般管理費	935	1,064
営業利益	461	588
営業外収益	33	20
営業外費用	50	37
経常利益	445	570
特別利益	20	43
特別損失	0	19
税金等調整前四半期純利益	465	594
法人税等	178	255
少数株主損益調整前四半期純利益	—	339
少数株主利益	9	22
四半期純利益	278	316

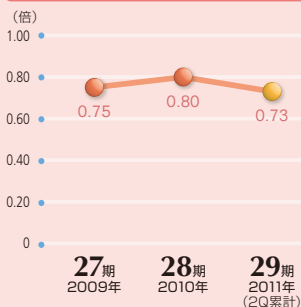
● キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

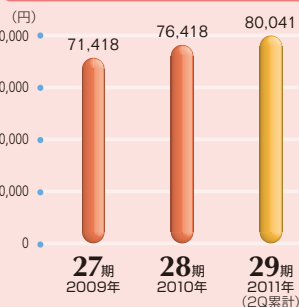
	前第2四半期累計 2010年1月1日～ 2010年6月30日	当第2四半期累計 2011年1月1日～ 2011年6月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	308	829
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 288	△ 115
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 72	△ 110
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△ 4	△ 1
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△ 56	601
現金及び現金同等物の期首残高	1,411	1,181
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,355	1,783

(注) 株価は各期の末日終値

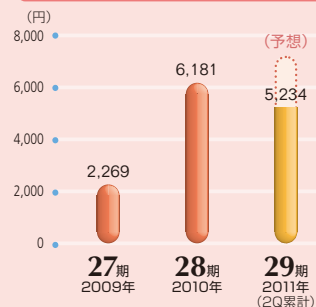
PBR (株価純資産倍率)



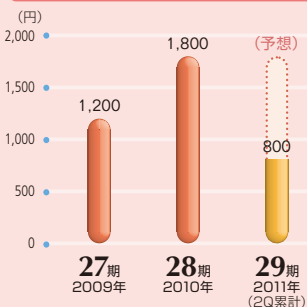
1株当たり純資産



1株当たり当期純利益



1株当たり配当金



One Point! 解説 3 株主還元

当社では、株主の皆様への利益還元を経営の重要事項の一つと認識しております。当社の株式を長期的かつ安定的に保有していただくため、安定配当を行っていくことを念頭に置き、配当性向を重視しつつ、今後の収益状況の見通しなどを総合的に勘案して決定すべきものと考

えております。

当第2四半期累計期間は、1株当たり中間配当(普通配当)800円とさせていただきます。

* 配当政策の変更、通期配当予想についてはP6をご覧ください。

会社概要

(2011年6月30日現在)

商号 コスモ・バイオ株式会社
 設立 1983年8月25日
 所在地 〒135-0016
 東京都江東区東陽二丁目2番20号 東陽駅前ビル
 資本金 918百万円
 事業内容 ライフサイエンスに関する研究用試薬、機器、
 臨床検査薬の輸出入及び国内販売
 従業員数 連結：115名 個別：77名

役員

(2011年6月30日現在)

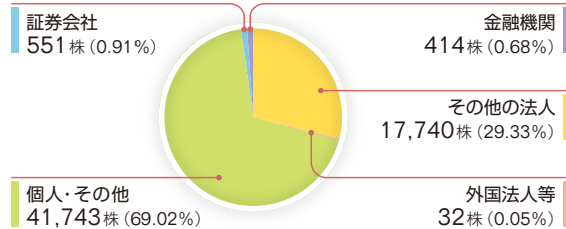
代表取締役社長 笠松 敏明
 専務取締役 田中 知知
 常務取締役 鈴木 忠
 取締役 櫻井 治久
 取締役 船戸 俊明
 常勤監査役 村田 実
 監査役 佐々木 治雄
 監査役 堀米 泰彦

株式の状況

(2011年6月30日現在)

発行可能株式総数.....183,616株
 発行済株式の総数.....60,480株
 株主数.....2,731名

所有者別株式分布状況



大株主の状況

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
東京中小企業投資育成株式会社	11,520	19.05
コスモプロパティサービス株式会社	5,760	9.52
コスモ・バイオ従業員持株会	3,621	5.99
福井 朗	3,000	4.96
原田 正憲	2,000	3.31
柴沼 篤夫	1,480	2.45
鈴木 忠	1,480	2.45
田中 知	1,480	2.45
高木 勇次	1,480	2.45
松本 眞和	1,344	2.22

(注) コスモプロパティサービス株式会社はコスモ石油株式会社の連結子会社です。

株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 定時株主総会 毎年3月開催 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 基準日 12月31日 公告方法 電子公告 <http://www.cosmobio.co.jp/>
 剰余金の配当の基準日 6月30日、12月31日 (ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行います。)
 単元株式数 1株 上場証券取引所 大阪証券取引所 JASDAQ スタンダード
 証券コード 3386

株式に関するお問い合わせ先 ▶ 住所変更等、株式に関する手続き・お問い合わせは、お取引の証券会社へお願いいたします。



人と科学のステキな未来へ

コスモ・バイオ株式会社

〒135-0016

東京都江東区東陽二丁目2番20号 東陽駅前ビル
 Tel. 03-5632-9600 Fax. 03-5632-9613